

「教育経営の課題と実践」の授業紹介

古川 郁生

今回は、基礎科目である「教育経営の課題と実践」の授業紹介をさせていただきます。この科目の概要は、教育の今日的課題や教育政策と学校経営との関連性を見出し、学校経営への問題意識を明確にしていく。そして、変化する学校形態を踏まえつつ、学校運営を効率的かつ円滑に行うための協働体制づくり等、学校経営の在り方を教育行政等とのつながりも考察しながら、実務演習を通して事例的に学修するものである。

教育行政とのつながりを学修するために、9月7日（月）にこの授業で行った、つがる市の「議会視察」「教育委員会指導視察」で得た院生の学びを紹介します。

議会視察の感想（M1学校教育実践コース 佐藤 絢音）

1 議会視察で分かったこと

今回、初めてつがる市議会定例会を視察することができたが、自分たちの知らないところで市のために動いてくれている人たちが多くいることを実感することができた。

実際に議会の様子を、コロナウィルスの関係からテレビを通して見たため、詳しい内容までは理解するのが難しい点もあったが、一人一人の責任感をしっかりと感じ取ることはできた。例えば、議会は主に委員長を中心に進行されていたが、質疑の際に一人で対応して応えるのだと思っていたが、実際には関係のある部署の長の方が自分たちから挙手をして対応をしていた。当たり前なことかもしれないが、責任をもって一つ一つ



の内容に対して仕事をしているからこそすぐに対応ができるのだと感じた。これは、どの職業でもいえることだと思うため私自身も責任をもって、すぐに対応できるようにしていきたい。

2 議会視察で疑問に思ったこと

- ・議会で使用される資料は前もって参加する人たちに渡されているのか。今回、内容を聞いてみて、議会の時に資料が初見だと説明を聞きながらでは理解するのに時間がかかってしまうように感じた。また、資料が前もって渡されていたとしても議会が終わってから質疑したいことも出てくるのではないだろうか。その際の対応があるのか気になる点であった。
- ・今回の予算編成に限らず一般質問においても、市民に重要な内容が多くあると感じた。これらを市民に伝える手段として、どのような取り組みがなされているのか。

指導視察の感想（M1ミドルリーダー養成コース 山本 隼人）

1 指導課視察で分かったこと

指導主事に関する職務規定については、地方教育行政の組織及び運営に関する法律（地行法）により細やかな部分まで規定されていること。また、一人の先生が多分野の業務に取り組んでいることを理解した。

2 指導視察で更に知りたいと思ったこと

スクールカウンセラー（SC）を各学校に派遣する際の時間数はどのように決められているのか。

3 指導視察でその他に感じたこと

これまで計画訪問や研究授業の際に指導していただいていた教育委員会指導課及び指導主事の先生方の業務について、初めて具体的な内容に触れることができた貴重な



経験となった。もちろん今日の研修ですべてを把握できたわけではないが、指導主事の先生方の説明や資料から、それらの業務が本当に多岐にわたっていることを改めて確認した。そのことと関連して、自分自身もミドルリーダーとして日頃から多くの視点から学校教育を捉えるようにしなければならないと感じた。自分の担当や目立つような部分・活動にだけ目を向けるのではなく、より多くの教科や分野に

関心をもって取り組んでいくことが必要である。そう考えたとき、現在行っているさまざまな校種・教科・分野での諸実習は、これまで気付かなかったことに視野を広げるためにとっても大切な機会であるように思う。今まで以上に積極的に実習に参加して、自身の関われる領域を広げていきたい。

教育委員会は、行政と学校教育を「つなぐ」役割を担っており、実際に子どもたちと関わってきた経験や知識が豊富な先生方がたくさんおられる。今日の実習を終えたとき、研究授業を行った際に「何かあればいつでも委員会に電話してください。相談に乗ります。」と声をかけてくださったある指導主事の先生を思い出した。今日の研修では、教育委員会をこれまで以上に身近に感じる事ができた。教育委員会（指導主事の先生方）の力を借りながら、協働して学校教育の向上に努めるという意識で、今後の教育活動にあたっていきたい。